

第31回オリンピック競技大会(2016年)国内立候補都市

# 開催概要計画書

福岡市

## 01

コンセプト  
CONCEPT

# 150万都市 福岡の挑戦

福岡市は、これまでの歴史と伝統、特性と魅力を活かし、九州・山口、地方の都市、さらに東アジアの大都市と連携し、市民生活と共存した、オリンピックを初心に戻す21世紀にふさわしいオリンピックの開催実現に向け、全力をあげて挑戦します。

1995年ユニバーシアード福岡大会

## 150万都市でのオリンピック開催モデルの提案 博多湾を舞台に持続可能なオリンピックの実現

オリンピックとは本来、ひとつの都市に全世界からアスリートが集い、フェアプレイの精神に基づいて心身を鍛え、互いに理解し合って友情を育み、さらには世界の平和に貢献しようというものです。

しかし、近年のオリンピックは、その肥大化や首都級の大都市など、限られた都市のみでの開催などが懸念されている状況にあります。

福岡は、これまで積み重ねてきた力を最大限に活かすことによって、国境や民族を超えた、さまざまな形で交流していく時代、21世紀にふさわしいオリンピックを提案できると考えます。

博多湾全域を会場に、150万都市での持続可能なオリンピック開催のモデルを提案・実現することによって、世界的なオリンピックムーブメントの発展に向けて挑戦し、世界のより多くの都市でのオリンピック開催の可能性に途を拓きます。

## 1. アジア、世界との交流と共生の歴史の中で成長してきた福岡市

# 01

コンセプト  
CONCEPT

### ■アジア、世界との交流と共生の歴史

福岡市はアジア大陸に最も近いという地の利に恵まれ、古来より、海の道を経たアジア大陸を通じて、アジア、そして世界との交流と共生の歴史の中で、都市を形成してきました。2000年前のアジア大陸との交流の証である「金印」、外国の使節を出迎える迎賓館であった「鴻臚館」、大陸との交易によって商人・町人が自由闊達に活躍し、自治都市・自由都市が形成されていた中世期、いつの時代も、福岡市は、日本とアジア、そして世界をつないできました。

その自由で開放的な精神は、脈々と現在まで受け継がれています。

### ■シルクロードを経て、オリンピック発祥の地アテネと通じる「博多湾」

その交流の拠点となったのが博多湾であり、福岡市は、歴史的にも地理的にも「博多湾」に都市的発展の場を求め、豊かな自然と都市の魅力が共存するまちを築いてきました。

この博多湾から海を通じて、オリンピック発祥の地アテネと福岡市は、シルクロードでつながっていました。



「福岡・博多鳥瞰図」  
(九州大学附属図書館六本松分館所蔵)

### ■平和台(平和の丘)から始まった 福岡市のスポーツ・歴史

戦後の福岡市のスポーツ・歴史は、故岡部平太氏を中心とするスポーツ界の先達たちが、当時の進駐軍を説得し、旧軍兵舎跡地を、自ら汗を流し築きあげ、平和台(平和の丘)と変え、スポーツ拠点としたことに始まります。

その後もスポーツを愛する市民性は受け継がれ、1995年に「国際スポーツ都市宣言」を行うなど、これまでもオリンピックムーブメントの推進に貢献してきました。

世界で最も歴史と権威がある福岡国際マラソン選手権大会、女子柔道の競技レベル向上に大きく寄与した福岡国際女子柔道選手権大会、大成功を収めた1995年ユニバーシアード福岡大会、大規模水泳競技大会の歴史を変えた2001年世界水泳選手権福岡大会、そして今年、アジアで初めての世界クロスカントリー選手権大会など、福岡市は、多くの国際スポーツ大会を誘致・開催してきました。

その高い運営能力と温かいホスピタリティは、国内外のスポーツ関係者から高い評価を受けています。

## 01

コンセプト  
CONCEPT

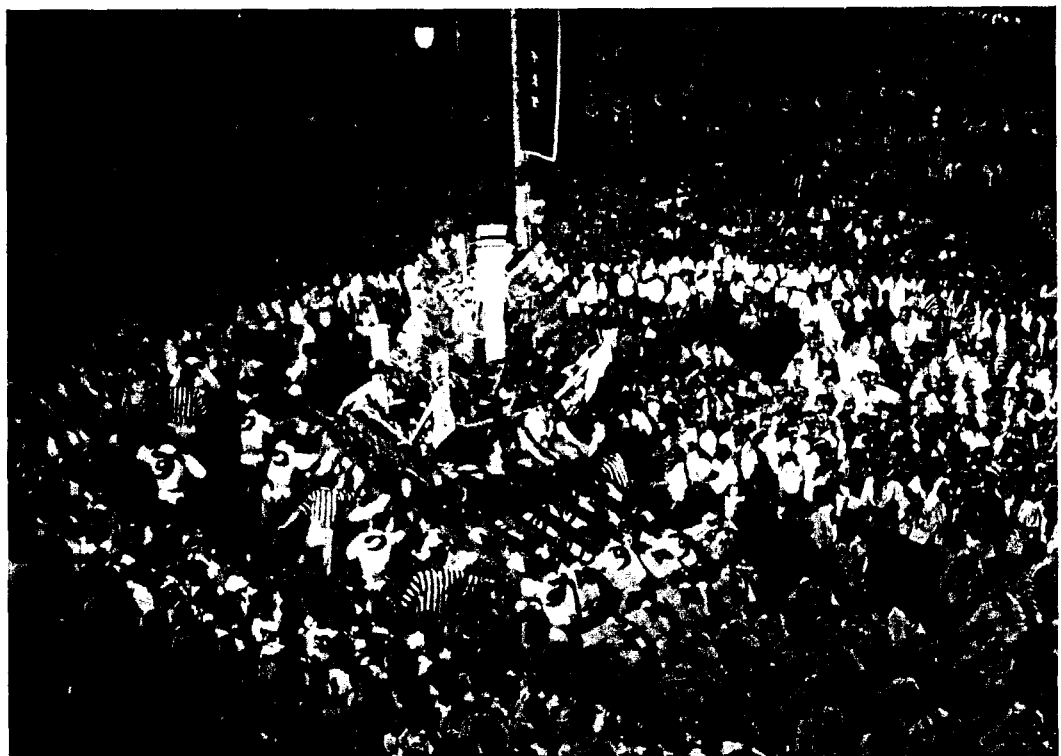
## 2. 人々が快適に生活できる都市

### ■官民一体となって、「もっとも住みやすい都市=福岡」に成長

- 現在、福岡市は、市民の力、民の力によって、「元気な都市」、「もっとも住みやすいまち」と評される都市に成長してきました。
- 150万都市・福岡は、各種スポーツ・コンベンション施設や国際空港、高速道路、新幹線などの都市インフラ、円滑な都市交通、安全な都市空間などの充実した都市機能がコンパクトに集積し、博多湾や緑の豊かな自然と調和した、人々が快適に生活できる都市です。
- これまでのまちづくりの原動力となった市民や民間の力を得ながら、官民一体となって、福岡市の特性と魅力を維持し、活かしながら、市民生活と共存したオリンピックの開催を目指します。

### ■温かいホスピタリティとおもてなしの精神

- 福岡・九州の大いなる歴史と豊かな自然に育まれてきた開放的で、自由な精神を発揮し、世界中から来訪する人々を、温かいホスピタリティで迎え入れます。
- 800年の歴史を有する「博多祇園山笠」や約200万人の見物客で賑わう「博多どんたく港まつり」など、日本を代表する祭りを育んできた福岡市は、おもてなしの精神で交歓と交流の舞台を繰り広げます。
- 「スポーツアイランド福岡・九州」は、各地の特色を活かしながらスポーツに関する取り組みを進めており、一体となって選手・役員やオリンピックファミリー、観客などの来訪者をお迎えします。



博多祇園山笠

### 3.豊かな自然の中で、スポーツ本来の姿を実現

---

- 博多湾の豊かな自然の中で、選手たちが、その力を最大限に発揮し、スポーツ本来の姿を実現できるオリンピックを目指します。
- 現在の自然を守り、活かし、創出するオリンピックを目指します。
- 先端技術を導入し、貴重な資源やエネルギーを浪費せず、ゼロエミッションやCO<sub>2</sub>排出量の最大限の削減を目指すなど、地球環境への負荷を抑制し、自然と調和した持続可能なオリンピックを開催します。
- 国際連合人間居住計画(ハビタット)アジア太平洋事務所(福岡)等との協力により、特設(仮設)施設等で発生する資材の発展途上国への優先的な提供、開発・導入されたシステムや水循環システムの移転・普及などを通じて、資源の有効活用と世界の環境改善へ貢献します。
- 博多湾を舞台とするオリンピック開催を通じて、都心部に、海に開かれ、自然と共生した、新たな都市空間を創造します。

### 4.博多湾全域を会場に、海を活かした持続可能なオリンピック

---

- 古来からアジア、世界との道であり、豊かな海岸線を持つ博多湾を舞台に、全域を会場として、3つのクラスター(施設集積エリア)をコンパクトに配置します。
- 世界水泳選手権福岡大会の経験を活かし、ヤフードームに特設プールを設置するなど、既存ストックと特設(仮設)施設を有効に活用します。
- 新設する施設についても、将来の福岡市の国際スポーツ都市としての方向性に合致し、後利用を十分に考慮するなど持続可能なオリンピックを目指します。
- 客船を積極的に利用するなど、博多湾を活かし利便性に富んだ宿泊施設を提供します。
- 博多湾に面した各クラスターの立地特性を考慮し、万全の安全性を実現します。
- 日本で最も先進的な節水都市として培われた技術やノウハウを活かし、節水、水循環利用を推進するなど、水を守り、海を守り、自然を創出するオリンピックを目指します。

### 5.アスリートに最高の競技環境を提供

---

- 福岡でのオリンピックは、選手村から約60%の選手が5分以内、約80%の選手が20分以内で競技会場への移動が可能です。またパラリンピックでは、約80%の選手が5分以内で移動が可能な最短・最良のアクセスを提供します。
- 施設の整備や配置にあたっては、コンパクトでありながらも、機能性の確保を重点に、選手の競技環境を最優先し、クオリティを維持する「浪費なき高品質」を目指します。
- 全ての競技会場が国内、アジア、そして世界からの多くの観客であふれ、選手の華麗な技と演技が惜しめない拍手と喝采で包まれる感動のオリンピックを目指します。
- ITやロボットなど日本が世界に誇る最先端のテクノロジーを駆使し、効率的で円滑な大会運営を目指します。

# 01

コンセプト  
CONCEPT

## 6. 交流の蓄積を活かして、アジアから世界に広がるオリンピック

---

- 国内のみならずアジアから多くのボランティアや市民参加により、アジア全域の人々の協力によって世界各地からの来訪者を迎え入れ、アジアから世界に広がるオリンピックを開催します。
- 特に、隣接する東アジア諸都市においては、それぞれとの確固とした交流の絆を活かし、事前キャンプ地としての協力やボランティアの参加、大会時の応援観戦など、東アジアが一体となったオリンピックを実現します。

## 7. 未来を担う子供たちに、スポーツの夢と感動を

---

- 1989年から続いている「アジア太平洋子ども会議」などのネットワークを活かして、アジアの子どもたちのアイデアや夢を活かし、一緒に創るオリンピックを目指します。
- オリンピック開催を通じて、子どもたちに夢と感動を与え、たくましく生きる力を養うとともに、雁の巣レクリエーションセンターなどのスポーツ施設を充実し、子どもたちが自然の中で伸びやかにスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

## 8. パラリンピックへ向けた障がい者スポーツの振興

---

- 福岡市は、1984年に「障がい者スポーツセンター」を開設し、「障がい者スポーツレクリエーション振興会」を設立するなど、全国に先駆けて、障がい者がスポーツに容易に参加できる環境の整備に取り組んできました。
- パラリンピックメダリストを擁する民間組織や障がい者スポーツ団体等との連携による事業を通して、その普及・振興と選手強化を積極的に支援します。

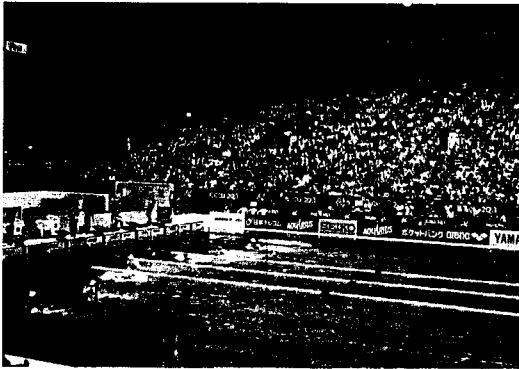
## 9. 世界のトップアスリートを目指した日本の選手強化への協力

---

- 西日本ナショナルトレーニングセンターの整備により、選手強化への協力と、アジアをはじめとする世界的なスポーツ環境の向上に貢献します。
- 未来のスポーツ界の主役となるジュニア選手の発掘・育成・強化を、最も主要な取り組みとして進めます。
- 競技団体、大学、医療機関などと連携し、競技者への治療・リハビリ、スポーツに関連する医学的な研究など包括的な機能を持つ「スポーツ健康・医療センター」(仮称)を公的病院内に開設し、選手強化への支援と市民の健康づくりを進めます。
- また、近年、欧米においても関心が高まっている東洋医学において、オリンピック開催を契機に、東洋医学の治療・リハビリに関する東アジアのネットワーク構築を目指します。



各国・地域選手団を暖かく迎え入れたユニバーシアード福岡大会



特設プールを活用した世界水泳選手権福岡大会

## 【世界的モデルの提案】 —オリンピックムーブメントへの貢献

オリンピックのプログラムとなった福岡市の「校区ふれあい事業」1995年ユニバーシアード福岡大会で取り組まれた、一校区が一国を応援し、交流するという「校区ふれあい事業」は、市民レベルで、国際理解を深め、国際交流の固い絆を結ぶ絶好の機会となりました。その取り組みは、長野オリンピックでも「一校一国運動」として実施され、今回のトリノ冬季オリンピックでも行われるなどオリンピックの重要なプログラムとなっています。

「校区ふれあい事業」で結ばれた交流は、大会後も続けられ、福岡市の国際交流の大きな契機となりました。

### 水泳競技大会の歴史を変えた「特設プール」

屋内特設プールという大胆な発想で、バルセロナとの誘致合戦に勝利し、開催された2001年世界水泳選手権福岡大会は、水泳競技大会の歴史を変えることになりました。

この「福岡方式」は、その後のバルセロナ、モントリオールの世界水泳選手権大会でも継承され、より多くの国、都市での大会開催に新たな途を拓きました。

## Games for All すべての人々のためのオリンピック

スポーツは、世界共通の言葉、共通の文化であり、アスリートの華麗な技と演技は、世界中の人々を魅了します。

トップアスリートみずからが肉体の限界に挑戦するオリンピックは、スポーツの多様な価値をすべての人々と分かち合う精神を象徴しています。

福岡・九州は、オリンピック・パラリンピック招致・開催を通じて、「Games for All」の精神で、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、すべての人々がこころをひとつにできるスポーツの素晴らしさ、友好と平和の大切さを全世界へ発信します。

そして、子どもたちからトップアスリートまで、スポーツの多様な価値をすべての人々が共有し、実現できる取り組みを進めていきます。

## アジアの融和と発展、そして世界平和への貢献

新たな21世紀、国家の時代から都市の時代、グローバリズムとリージョナリズムが大きなうねりとなる時代を迎え、東アジアの経済的な成長がめざましく進展し、アジアの大交流時代が到来しています。

一方国内では、地方分権、分極型の国土構造が目指されており、地方や地域がその特性と魅力を活かし、活力を高めることが日本の活力であり、オリンピック開催は、この「都市の時代」、「地方の時代」の大きな契機だと考えています。

福岡・九州は、新しい21世紀において、これまで培ってきた世界との友好の輪をさらに広げ、平和の象徴であるオリンピックの聖火を灯し、日本の多様性と活力の創出、アジアの融和と発展、ひいては世界の平和に貢献したいと願います。

## 03

## 25.アーチェリー



競技会場・練習会場  
VENUES



## 雁の巣アーチェリー場(新設)

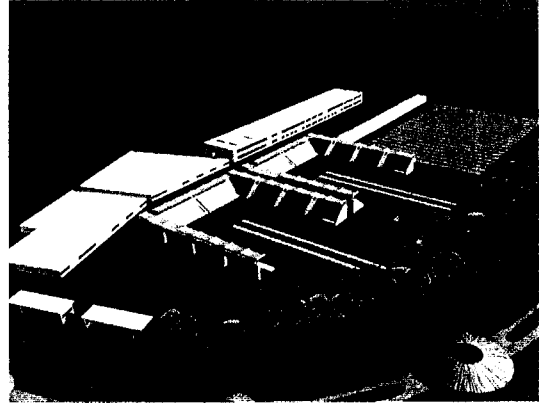
収容人員：4,000人

選手村からの距離/時間：8.5km/13分

選手村から望める緑豊かな自然環境を活かしたアーチェリー場を新設します。

## 【建設コンセプト】

- 屋外競技施設が集積する海の中道地区の雁の巣レクリエーションセンター内に、国際規格の天然芝フィールドのアーチェリー競技会場を新設します。
- オリンピック選手村から15分圏内に位置し、アクセス良好な競技環境です。



## 【環境】

- 仮設部分は、リサイクル、リユース可能な資材を使用します。

## 【後利用計画】

- 周辺のスポーツ・レクリエーション施設と一体的な運用を行い、アーチェリーの普及・強化に活用します。
- 国内のみならず、アジアをはじめ世界の人々も、競技やトレーニングの場として利用します。

## 【ホスピタリティ】

- オリンピックファミリー、VIPなどに快適・高質なラウンジ・ケータリングサービスを提供します。
- 多言語の通訳やボランティアを配置し、きめ細かく温かいサービスを提供します。

## 【安全対策/その他】

- クラスター単位でのセキュリティラインを設けるとともに、競技会場個別のセキュリティ対策を行い、万全の警備・防災体制を構築します。

## 施設概要

所在地	福岡市東区	
フィールド	70m射程 ランキングラウンド 22レーン 決勝ラウンド 2レーン	
運営機能	選手エリア	2,100㎡
	メディカル	160㎡
	役員・審判員エリア	850㎡
	VIPエリア	540㎡
	放送・報道エリア	4,330㎡
	運営エリア	3,350㎡
	合計	11,330㎡
駐車場	普通車153台、バス13台	

## 練習会場

競技会場内ランキングラウンド用レーンを使用します。

## 競技日程

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
					F(1)	F(1)	F(1)	F(1)							



## 04

## オリンピック選手村

オリンピック選手村  
OLYMPIC VILLAGE

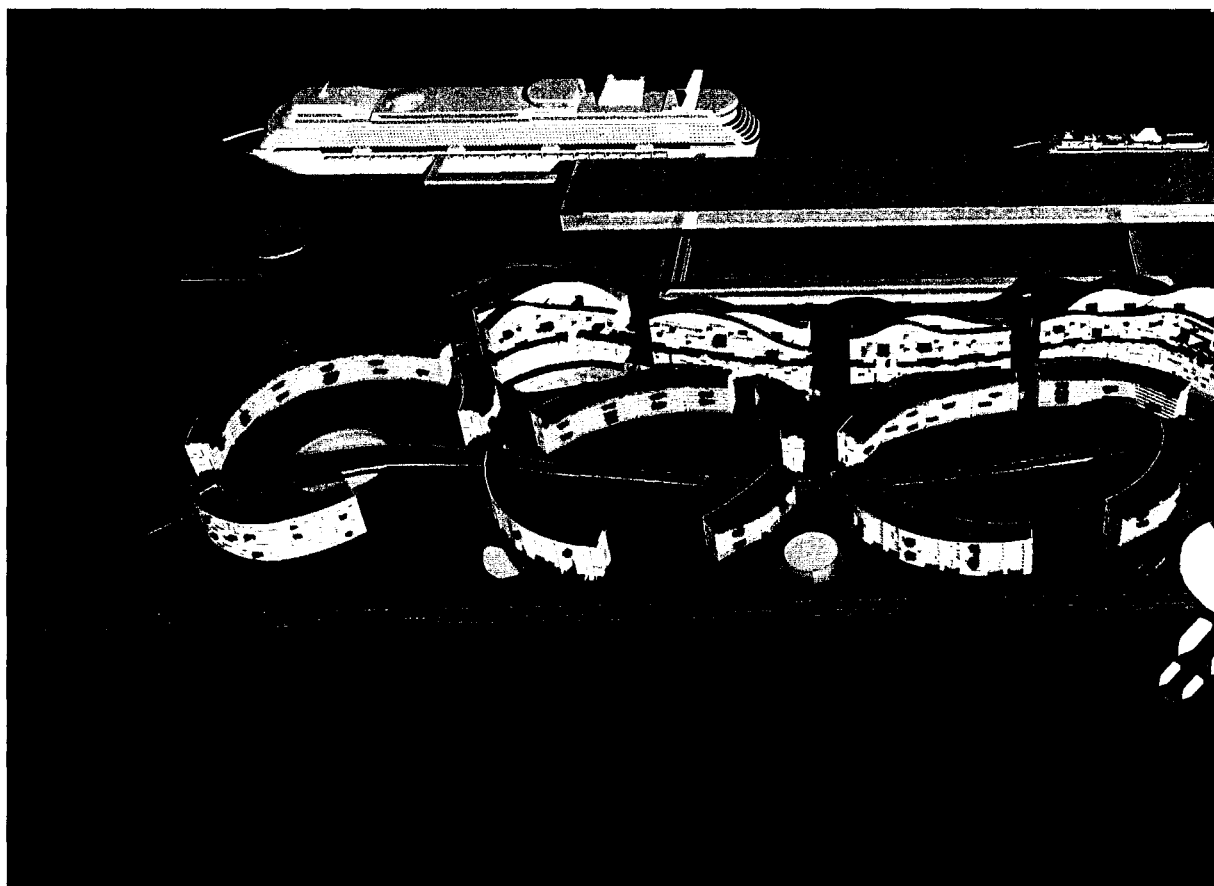
オリンピック史上初めて、都心部に立地しながら、オリンピックスタジアムやメインアリーナなどの主要施設に隣接したセキュリティ万全なオリンピック選手村です。

## 建設コンセプト

選手村は、選手が体調を整え精神をリラックスさせるための工夫を凝らしています。博多湾に突き出て独立した地形を利用し、自然の恵みを取り込みホスピタリティあふれたサービスを行います。競技会場との近接性、安全性、快適性において、過去に類をみない選手の立場に立った宿泊環境となります。

## ■5分で競技会場へ

競技会場と選手村の一体感・近接性は、選手の競技への取り組みに最も重要な要素の一つです。これまでのオリンピック大会以上に競技会場と選手村の近接性を重要視し、60%の選手が5分以内にアクセスできることを可能にします。



### ■安全性(セキュリティ)

選手村は、海に囲まれているという立地を活かし、陸上及び海上の両方面において厳重な警備体制を構築し、万全な安全対策を講じます。

### ■環境共生型～博多湾方式の環境づくりを提案します

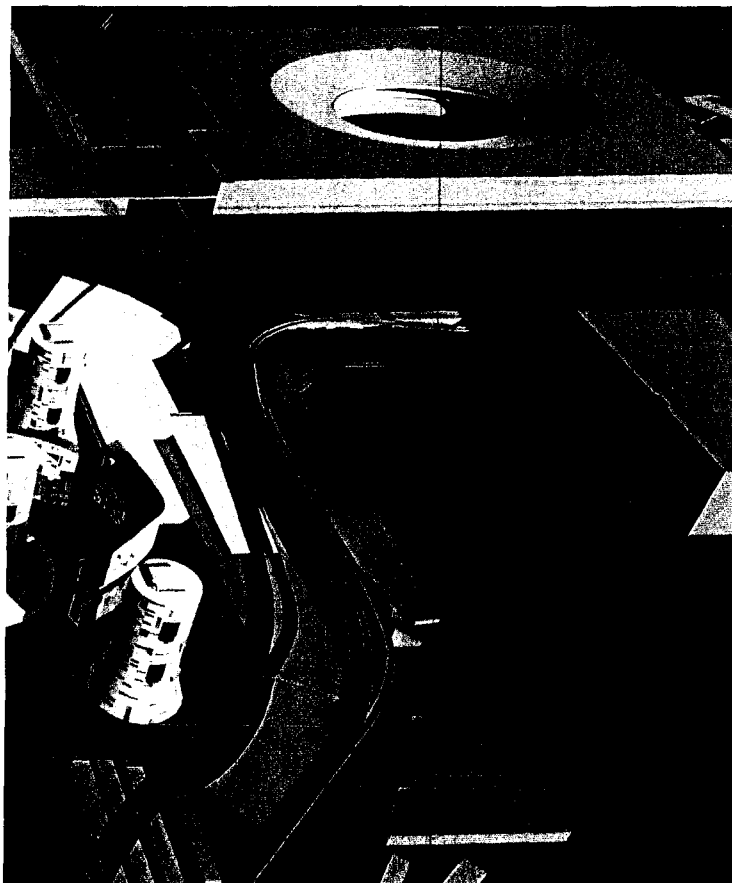
博多湾方式の環境づくりとして、都心部のヒートアイランド現象を博多湾の立地とさまざまな環境的工夫により緩和させ、選手に快適な環境共生型の選手村にします。

### ■各国選手に最高のホスピタリティとアメニティの提供

ユニバーシアード福岡大会で高い評価を得たホスピタリティや、数々の世界大会とアジア太平洋子ども会議でのボランティアの実績を活かし温かいおもてなしをします。すべての選手団に、母国語によるオリンピック情報及びナビゲーションを24時間、モバイルシステムで提供します。

### ■21世紀のまちづくり

博多は古来、大陸との交易で栄えた港町で、近年はアジアの交流拠点都市としての性格を強めてきました。オリンピックを終えた選手村は、海に開かれた福岡のまちづくりのモデルになるでしょう。



旗広場



夏祭りを楽しむ選手たち



(イメージCG) ボランティアによる華道教室 (1995年ユニバーシアード福岡大会)